

沖縄本島久志初等学校学童マラリア 原虫検査成績について

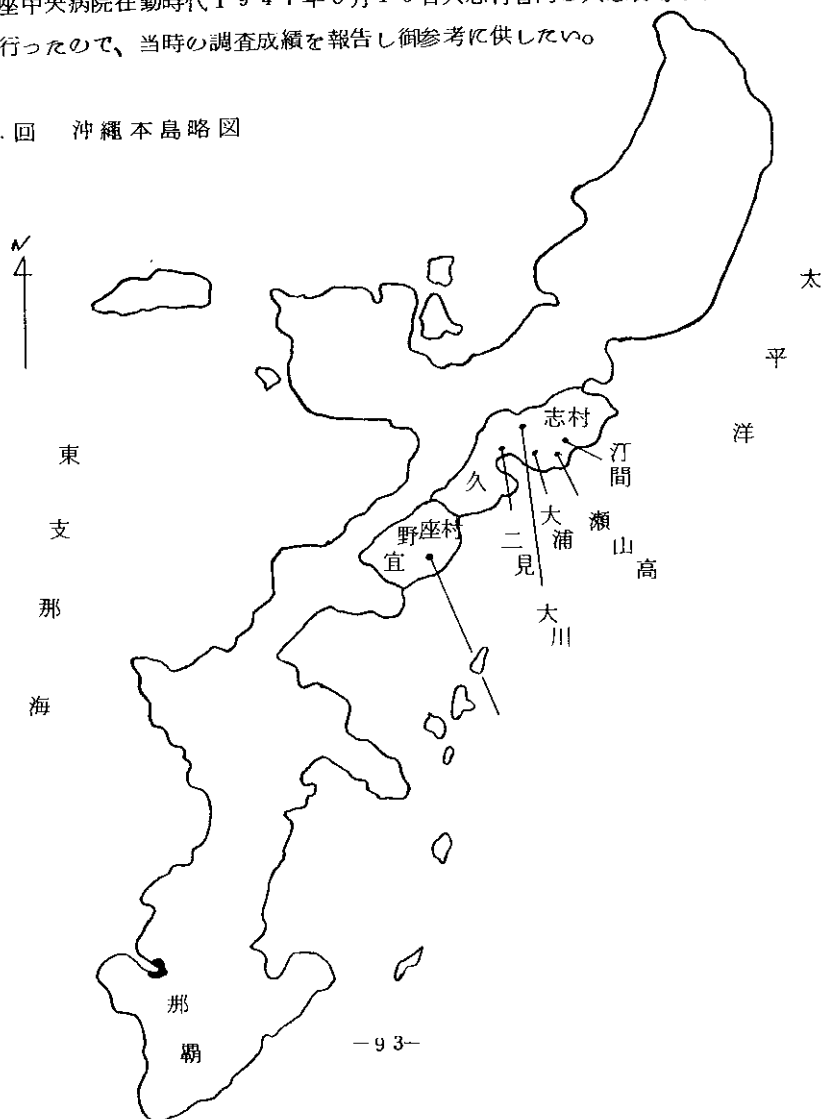
琉球衛生研究所 国吉真英

1 はじめに

沖縄に於けるマラリアは戦前主として宮古、八重山両群島に於いては流行し相当猛威を揮っていた。今次沖縄大戦による衛生状態の悪化と食糧不足による栄養低下、住民の疎開地からの移動、海外及び戦地からの引きあげ者（復員者の中にはマラリア原虫保有者が多数居た）その他悪条件が重なり、沖縄各地に大流行を来たし、1946年には沖縄本島だけでも、160,098人がマラリアに罹患し、660人がそのため死亡している。

私は宜野座中央病院在勤時代1947年8月16日久志村管内の久志初等学校学童のマラリア原虫の検索を行ったので、当時の調査成績を報告し御参考に供したい。

第1.回 沖縄本島略図



2 検査成績

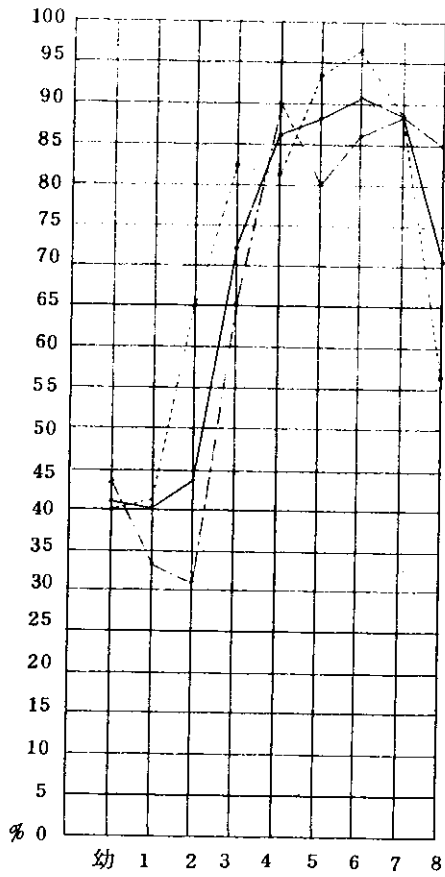
学童を教室に集め耳朶から厚層一滴標本を作成し、溶血後ギムザ染色を行い鏡検した。

被検査457名中マラリア体験者308名(67.1%)、三日熱マラリア原虫陽性者153名で感染率は33.46%を示した。検出されたマラリア原虫は三日熱原虫で、4日熱、熱帯熱マラリア原虫は検出されなかった。調査成績は下記の通りである。

第1表 学年別検査成績

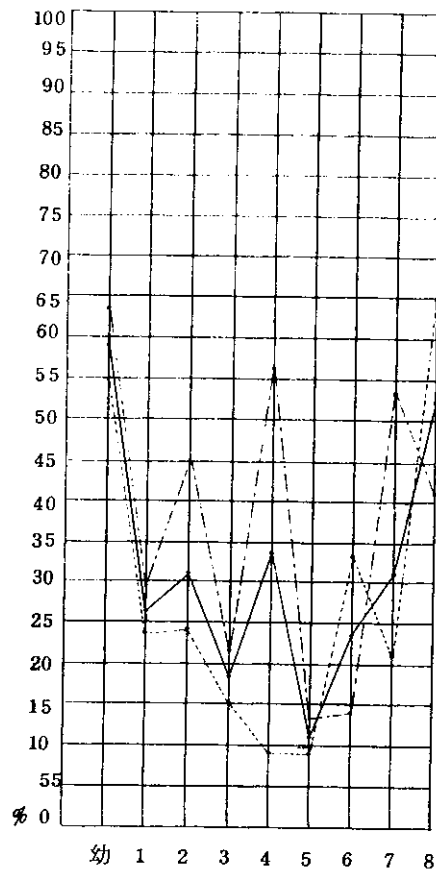
学年別	在籍人員			検査人員			マラリア体験者人員			検査人員ニ対スルマラリア体験百分率%			検査成績(マラリア原虫陽性)			検査人員ニ対スル感染百分率(%)			備考
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
幼稚園	63	61	124	40	38	78	16	17	33	40.00	44.74	41.03	22	24	46	55.00	63.16	59.00	1.マラリア原虫ハ三日熱原虫ナリ 2.本成績ハ厚層標本ニ依ル成績ナリ
1	31	31	62	24	26	50	11	9	20	41.67	34.61	40.00	7	6	13	29.17	23.08	26.00	
2	24	35	59	20	29	49	13	9	22	65.00	31.03	44.90	9	7	16	45.00	24.14	32.65	
3	25	31	56	18	26	44	15	17	32	83.33	65.38	72.72	4	4	8	22.22	15.38	18.14	
4	27	28	55	23	22	45	19	20	39	82.61	90.91	86.66	13	2	15	56.52	9.09	33.33	
5	33	29	62	29	21	50	27	17	44	95.01	80.95	88.00	4	2	6	13.79	9.52	12.00	
6	31	35	66	27	30	57	26	26	52	96.22	86.66	91.21	4	10	14	14.81	33.33	24.56	
7	26	39	65	13	32	45	11	27	38	84.61	84.38	84.44	7	7	14	53.77	21.88	31.11	
8	26	21	47	19	20	39	11	17	28	57.89	85.00	71.51	8	13	21	41.05	65.00	53.85	
計	286	310	596	213	244	457	149	159	308	69.95	65.16	67.61	78	75	153	36.61	30.74	33.46	

第2図 学年別マラリア体験率



汎例
 A線.....学年別感染率
 性別感染率 { B線....男性
 C線....女性

第3図 学年別マラリア感染率

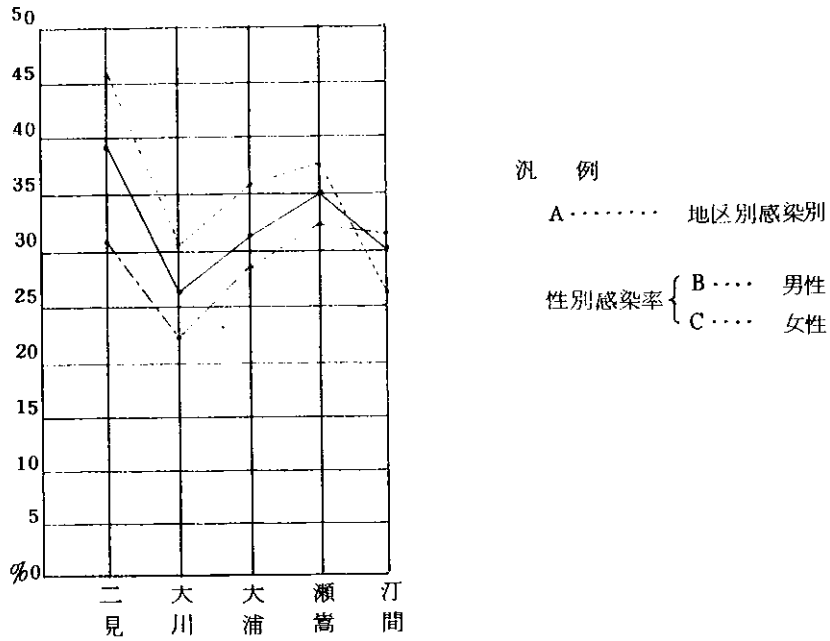


汎例
 A線.....学年別感染率
 性別感染率 { B線....男性
 C線....女性

第2表 地域別感染率

地域別	検査人員			検査成績			検査人員ニ対スル感染百分率			備考
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
二見	42	52	94	20	17	37	47.62	32.69	39.36	1947年8月16日検査実施ス
大川	85	35	70	11	8	19	31.42	22.85	27.14	
大浦	35	45	80	13	13	26	37.14	28.89	32.50	
瀬嵩	58	60	118	22	20	42	38.13	33.33	35.59	
汀良	43	52	95	12	17	29	27.91	32.69	30.53	
計	213	244	457	78	75	153	36.61	30.74	34.46	

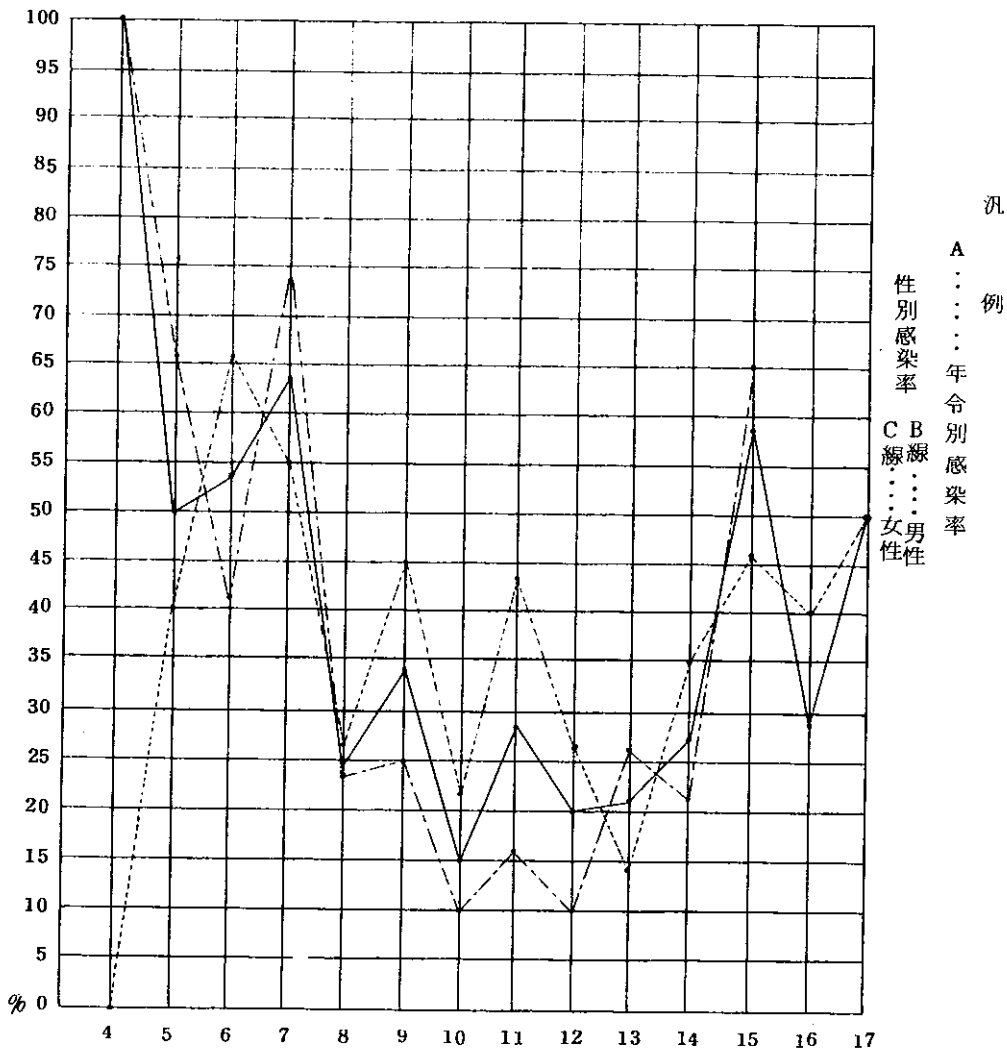
第4図 地域別感染率



第3表 年齢別感染率

年齢別	検査人員			検査成績			検査人員ニ対スルマラリア感染率 (%)			備考
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
4		1	1		1	1		100.00	100.00	
5	10	6	16	4	4	8	40.00	66.67	50.00	
6	12	12	24	8	5	13	66.67	41.67	54.17	
7	18	19	37	10	14	24	55.56	73.67	64.86	
8	23	26	49	6	6	12	26.09	23.07	24.47	
9	22	31	53	10	8	18	45.46	25.81	33.96	
10	18	22	40	4	2	6	22.22	10.00	15.00	
11	23	26	49	10	4	14	43.48	16.16	29.91	
12	29	20	49	8	2	10	27.58	10.00	20.40	
13	21	29	50	3	8	11	14.28	27.58	22.00	
14	17	27	44	6	6	12	35.29	22.22	27.28	
15	13	23	36	6	15	21	46.15	65.21	58.33	
16	5	2	7	2		2	40.00		28.57	
17	2		2	1		1	50.00		50.00	
計	213	244	458	78	75	153	36.61	30.74	33.46	

第5図 年齢別感染率



第4表 厚層及薄層標本ニ依ルマラリア原虫ノ比較成績

検査人員	厚層標本		陽層標本		検出率 差	厚層及完前標本 完全ニ一致セルモノ	薄層標本ニ陰性 厚層標本ニ陽性	薄層標本ニ陽性 厚層標本ニ陰性
	陽性	%	陽性	%				
457	153	33.46	24	5.23	28.23	24	129	0

3 考 察

沖縄本島に於ては戦前マラリアの発生報告はなかった。今次沖縄大戦に於いて本島各地に本症が爆発的に流行し多数の死亡者を出した。1947年頃まで宜野座病院の外来をおとづれる患者の中にはマラリア患者が多く見受けられた。久志初等学校の学童さえ33.5%と云う高い感染率を示して居たので、その父兄及びその地域一般住民のマラリア感染はもっと高率であったものと推察された。

米軍は終戦直後のマラリアの大流行に鑑み、本格的な防退計画を樹立し、沖縄本島各地に地区衛生課を設置し、蚊の駆除作業としてDDTの撒布を実施した。生活環境が漸次改善されるとマラリア患者の発生も次第に減少し、1953年頃には沖縄本島に於いては殆んど終熄した。

4 おわりに

私は1947年8月久志村久志初等学校学童のマラリア原虫の検索を行い、その当時の調査成績を報告した次第である。本成績が終戦当時の沖縄本島一地域のマラリア流行の参考資料となれば幸甚に存する次第である。

終りに本調査に御協力下さった上与那原朝常氏並びに嘉陽宗正氏に感謝の意を表す。

(本調査の概要は1947年10月30日第2回沖縄医療団医学会に於いて発表した。)

参 考 文 献

琉球政府厚生局編(1963年)厚生白書

第1回 沖縄公衆衛生大会 沖縄公衆衛生学会総会
記録集別刷 (1970年2月28日～3月1日)